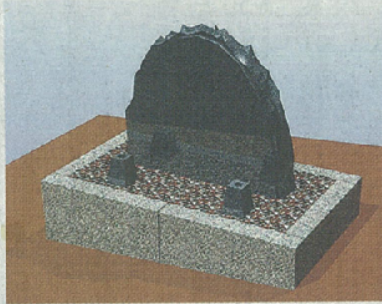


3.11津波犠牲者慰霊碑

川崎区の石材店 陸前高田に寄贈

東日本大震災で大きな津波被害を受けた岩手県陸前高田市に、川崎市の石材店が犠牲者を慰霊する石碑を寄贈することになった。身元不明の遺骨を預かる寺に今月中にも建てられる。陸前高田市の担当課は「ありがたい支援をいただいた」と善意に感謝している。

(栗原淳)



陸前高田市に建てられる慰霊碑のイメージ図
(阿部石材店提供)

慰霊碑を贈るのは、阿部 部勝社長(六八)。二石屋として被災地に何ができるかを考え、慰霊碑を贈ることを思い付きました。昨年、アイデアを川崎市に相談したところ、震災後の人的支援で職員を派遣して交流があった陸前高田市を紹介された。

碑は幅約一・五尺、高さ約一・三尺の半円形。天竜御影石と呼ばれる硬質の高級石材で約一トンの重さがある。

社長「石屋にできること考えた」



慰霊碑と同じ石質の墓石で支援策を説明する阿部社長＝川崎区で

市街地から東へ約五キロの山腹にある普門寺の境内で、陸前高田市が寺から敷地を借り、身元不明の遺骨約二十柱を納めるため整備している無縁墓地の一角に建てられる。陸前高田側の要請で、「犠牲となられた方々の鎮魂と慰霊、そして陸前高田市の復興を願い、この碑を建立する」の文言を彫り込む。

「来年の三回忌に向けて、ありがたい支援をいただいた。今後も川崎市との交流が長く続いてほしい」と陸前高田市民環境課。両親が岩手県北上市出身でもあり、東北を襲った震災に心を痛めていた阿部社長は「十年、百年の年月に耐えるよう上質の石を選んだ。未永く被災者や遺族の祈りの場になれば」と願う。